

一人ひとりの行動が大きな力に

未来へつなごう、美しい地球

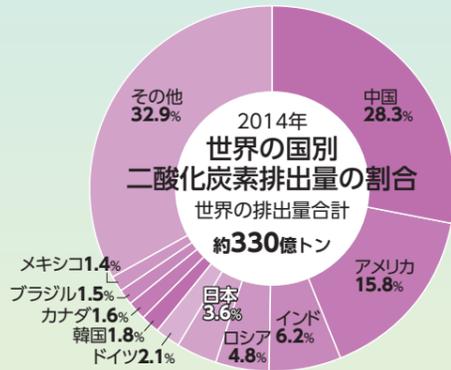
特集に関する問い合わせ
 エコロジー推進課 ☎ 24・8069

近年、大型台風や豪雨などの異常気象が日本でも頻発しています。これは大気中の二酸化炭素（以下「CO₂」）などの温室効果ガスの濃度が上昇し、地球の平均気温が上がる地球温暖化が原因と言われています。暖房などでエネルギー消費量が増える冬場を前に、家族そろって私達にできる地球温暖化対策を考えてみましょう。

世界では 地球温暖化対策に向けた 新たな国際的枠組み「パリ協定」

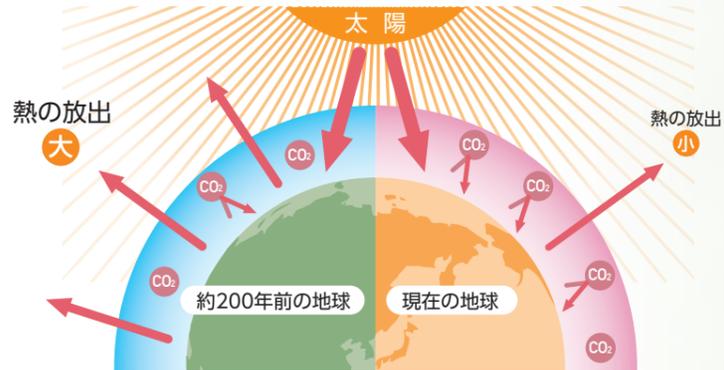
2015(平成27)年、フランス・パリで、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)が開催され、2020年以降、全ての国が協調して地球温暖化問題に取り組むための仕組みを示した「パリ協定」が採択され、翌2016(平成28)年11月に発効されました(日本も同年11月に批准)。

パリ協定は、1997(平成9)年に京都で開催された第3回締約国会議(COP3)で採択された「京都議定書」以来18年ぶりに合意された温暖化問題に対処する国際的な枠組みです。京都議定書が先進国のみに削減目標を課していたのに対し、パリ協定は全ての国が自国の削減目標を作成・提出し、目標達成のために国内措置の実施を義務付けたことが大きな特徴です。

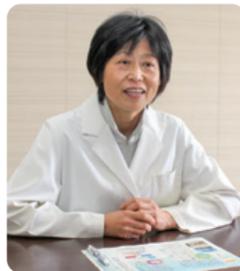


地球温暖化のしくみ

CO₂、メタン、一酸化二窒素などの温室効果ガスの濃度が高まり、地球からの熱の放出が小さくなると気温が上昇し、地球温暖化をもたらします。
 ■産業革命の頃(約200年前)の地球のCO₂濃度：約280ppm(=0.028%)
 ⇒現代の地球のCO₂濃度：2013年には400ppm(=0.04%)を超えてしまいました。



熱が放出され適温に保たれる 温室効果が強くなり気温が上昇
 (参考：全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイトより)



温暖化がそのまま進むと、海面上昇による平野の喪失や洪水・干ばつなどの災害の増加、熱帯地方に多い病気の流行など様々な悪影響が懸念されます。身近な農業分野では、コシヒカリなどのお米の栽培が難しくなることも予想されます。

小松市環境審議会委員 三津野 真澄さん

日本では 日本の削減目標と 求められる対策

日本のCO₂排出量は、世界全体のうち3・6%を占めており、国別では、中国、アメリカ、インド、ロシアに次いで5番目に多くなっています。

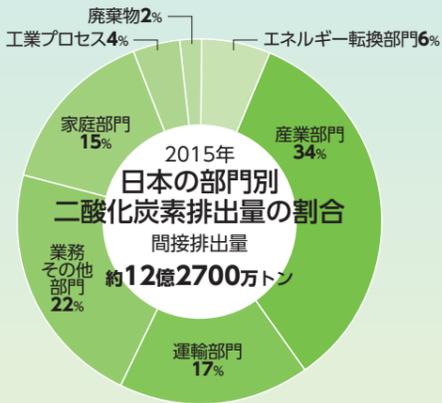
パリ協定で、日本は温室効果ガスの排出量を2030年度までに26%削減(2013年度比)することを目標に掲げています。更に、各部門毎に削減目標が設定されており、その中で家庭部門は約40%の削減が必要とされています。

この目標を達成するため、環境省では温暖化対策の国民運動「フルチョイス(「賢い選択」)を提唱しています。これは、一人ひとりが生活の様々なシーンで、CO₂の排出抑制につながる商品の購入やサービスの利用、ライフスタイルをバランスよく選択するとともに、快適で健康的な暮らしを目指そうという取り組みです。

各国の削減目標 平成27年10月1日現在
 国連気候変動枠組条約に提出された約束草案より抜粋

国名	削減目標	削減対象	削減率	削減基準年
中国	2030年までに	GDP当たりのCO ₂ 排出量を	60-65%削減	2005年比
EU	2030年までに	EU域内のCO ₂ 排出量を	40%削減	1990年比
インド	2030年までに	GDP当たりのCO ₂ 排出量を	33-35%削減	2005年比
日本	2030年度までに	温室効果ガスの排出量を	26%削減	2013年度比
ロシア	2030年までに	温室効果ガスの排出量を	70-75%に抑制	1990年比
アメリカ	2025年までに	温室効果ガスの排出量を	26-28%削減	2005年比

※アメリカは今年パリ協定からの離脱を表明



未来のために、いま選ぼう。

- 例えば、
- 省エネ製品への買い替え
 - 自転車や公共交通機関の利用
 - 家庭でウォームビズ、クールビズ
 - 住宅の高気密・高断熱化 など

(グラフ参考：右からEDMCエネルギー・経済統計要覧2017年版、全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト、温室効果ガスインベントリオフィスより)



▲ごみの焼却熱を利用した発電で、「創エネ」施設としての機能を併せ持ちます(完成イメージ)。



▲リサイクルセンターを見学して環境について学ぶ荒屋小学校4年生の皆さん

小松市では スマートシティの実践拠点 クリーンセンター建設中

現在の焼却施設は、稼働から30年以上が経過し老朽化が進んでいることから、施設周辺の皆さんのご理解とご協力のもと、来年7月の稼働を目指して新しいクリーンセンターの建設を進めています。

新施設は、安全性を更に高めた最新型の焼却・排ガス処理システムを導入することで、これまで以上にCO₂を低減し地球環境を守ります。また、最大の特徴は、ごみ焼却で発生する廃熱を利用した高効率発電システムを

備えていることで、最大1990kWhの電気をつくり出すことができます。これは、一般家庭4700世帯が1時間当たり使用する電力量に相当します。つくった電気は、施設内の消費電力を賄うとともに、余剰電力を売電するなど、エネルギー供給施設としての機能も期待されます。そのほか、地球温暖化や廃棄物について学べるなど、リサイクルセンターとともに環境教育の拠点としての役割も担っていきます。

手軽にできる「ごみダイエット」

● 名刺サイズ以上の紙はリサイクル

チラシや雑誌、本はもちろん、封筒やティッシュ・お菓子の箱など、名刺サイズ以上の紙はリサイクルできます。



家族が分かる場所に、使わなくなった紙袋を置いて紙類を集めるようにしたところ、可燃ごみ大幅に減りました。今では家族みんなが、自然と紙を分別しています。

● 生ごみの減量化

水分を多く含む生ごみは、水切りネットなどを使って水切りすることで減量できます。悪臭などの予防にも効果的です。

※生ごみ処理機・コンポストなどの設置に対し、市の補助制度があります。



福田さん親子(園町)

ぎゅっとひと絞り



● 容プラは「プラマーク」を目印に

さっとひと洗いで、しっかり水切り。分別すれば、新たなプラスチック製品に生まれ変わります。



映像で分かりやすくごみの分別を説明するDVDを作りました。第1弾は容器包装プラスチックです。みんなが出すごみ。最後まで責任を持って、リサイクルやごみ出しを行いたいですね。

※DVDは町内会や団体へ貸し出していますので、エコロジー推進課までお問い合わせください(市ホームページで動画公開中)。



こまつ環境パートナーシップ
ごみダイエットプロジェクトの皆さん

リサイクルの推進拠点

商業施設など、市内21カ所で古紙やペットボトルなどを回収しています(古着も一部で回収)。詳しくは市ホームページをご確認ください。



市リサイクルステーション4号店

市内3カ所にある「古紙・古着」の回収拠点の4号店がオープンします。

持込可能日時 火曜日～日曜日(祝日を除く)、平日：9時～16時、土・日曜日：9時～12時
場所 国府地区体育館駐車場内(河田町)

11/5(日)
OPEN!

ごみダイエット袋導入から1年。皆様のご協力に感謝!

ごみを減らし焼却に伴うCO₂の発生を抑制することを目的に、昨年10月に小松市指定ごみダイエット袋を導入しました。

皆様のご理解とご協力により、導入後の1年間で可燃ごみは基準年の平成20年度に比べ21.7%の削減(平成28年10月～平成29年9月実績、平成27年度は▲10.8%)、また、分別によるリサイクル率は22.5%に上昇(平成29年4月～8月実績、平成28年度は20.2%)しました。

市では、可燃ごみの量を平成32年度に50%削減(平成20年度比)、分別によるリサイクル率を平成37年度に33%まで上昇させることを目標に掲げています。目標達成に向けて、今後もごみダイエットへのご協力をお願いします。



We enjoy eco!!

家庭でできる、ストップ! 地球温暖化

家電製品で省エネ

家電製品の省エネ技術は、ここ数年で大きく進んでいます。例えば、家庭の年間消費電力の割合で最も大きい約14%を占める冷蔵庫は、最新式のものだと10年前に比べ消費電力を半分以上に抑制できます。

ほかにも、照明などにLEDランプを使うことで、消費電力は一般電球の約1/6に抑制することができます。高い省エネ性能を持った家電製品を、上手に活用していきませんか。



冷蔵庫の
上手な使い方
手軽に省エネ

●ものを詰め込みすぎない(冷気がスムーズに循環することで、年間約44kWhの省エネ、年間約1,180円の電気代節約)



●設定温度を「強から中へ」切り替え(年間約62kWhの省エネ、年間約1,670円の電気代節約)

冬場のホットな過ごし方

暖房使用時の室温を20℃に設定しても、快適に過ごせるウォームビズを実践しましょう。

WARMBIZ

「衣」太い血管のある首や手首、足首を、マフラー、手袋、レッグウォーマーなどで温めることで、身体全体が温まります。

「食」冬が旬の根菜類は身体を内側から温めてくれる効果があります。

「住」温度計や湿度計を近くに置いて室内環境の「見える化」



広野さん親子(八里台)

▲「衣・食・住」のひと工夫で、エネルギーを節約

植物や森林の活用

● 「フローラルこまつ」の推進

CO₂を吸収し酸素をつくり出す植物は、地球環境にやさしいだけでなく、街に彩りや人にやすらぎを与えてくれます。花や緑を大切にしましょう。

● 木質バイオマスの利用

バイオマス(biomass)は、動植物などから生まれる資源(化石資源を除く)のことで、中でも森林資源は持続可能な循環型社会の実現に向け大きな効果が期待されます。市内でも、地元の未利用間伐材の木質チップを使って蒸気発電を行う企業や、里山健康学校せせらぎの郷(瀬領町)で浴場施設の湯や源泉の加温に用いるなど、先進的に活用されています。



バイオマス設備設置費補助

▶木質ペレット

ペレットストーブなどを設置する個人または事業者には、本体購入費の一部を助成します。

対象設備 薪ストーブ、木質ペレットストーブ、木質バイオマスボイラー
補助金額 本体購入費が50万円未満の場合：1/2(補助限度額5万円)、本体購入費が50万円以上の場合：1/10(補助限度額30万円)

※着工前に申請が必要です。そのほか補助には一定の要件がありますので事前にエコロジー推進課にご確認ください。

